



協定書に調印した（右から）平井知事、秦野社長、住田会長、森安町長＝6日、伯耆町二部の二部公民館

特産品販売促進へ

東亜青果と伯耆・二部地区活性化機構など

共生の里づくり協定調印

地方卸売市場の東亜青果（米子市米原9丁目、秦野一憲社長）と特産品開発で地域おこしを目指す伯耆町の二部地区活性化推進機構

同社の販売網を特産品の販売促進に生かす。同事業の協定締結は今回が初めて。過疎高齢化に悩む農村と企業双方のニーズをかなえ、発展を目指す。原木シイタケやどぶろく、手づくりみそなどの開発が盛んな同地区と、音楽熟成バナナや氷温二十世紀梨など高付加価値商品を販売する同社を具が引き合わせた。本年度予算は390万円。

同社は、インターネットや既成の販路を活用した販売、地域の特色を生かした商品開発などの支援を想定。今後、2カ月に1回程度の研究会を開き、活動内容を協議する。

この日二部公民館であった調印式では、秦

野社長、住田会長、平井知事、森安保伯耆町長が協定書に調印した。

住田会長は「出雲街道の宿場町としてにぎわった往年の活気を取り組みが新たな流通のモデルケースになれば」と話していた。